

# ハノイ工科大学とのスポンサー契約

## 両者のさらなる関係深化を確認



ハノイ工科大学スポンサー契約調印式ならびに日越外交関係樹立50周年記念寄贈式

調印式で契約書を交わしたフィン・クエット・タン学長と関正樹社長

2016年のベトナム進出以来、日越両国の発展に繋がる取り組みを行なってきた関彰商事。昨年の外交関係樹立50周年を節目として、その動きを加速させている。昨年12月には、ハノイ工科大学(同国ハノイ市)のフィン・クエット・タン学長や学校関係者を日本へ招き、2018年に同大学と交わしたスポンサー契約の更新と記念品の贈呈を行ない、今後、両者のさらなる関係の深化を確認した。

関正樹社長は「今後はより関係構築を進め、日本とベトナム両国の懸け橋として友好関係を深めていきたい」とあいさつ。タン学長は「これまで両者は共に取り組み、成果を出してきた。日本とベトナムの固い信頼関係の下、今後とも関係をさらに深化させていきたい」と期待を寄せた。

関彰商事は、2016年にベトナムの首都ハノイに駐在員事務所を設立し、ベトナムでの事業をスタート。ハノイ工科大学との関係は、同年にグループ会社のセキショウキャリアプラスが日本企業への就職を希望する学生と日本・日系企業とのマッチングを図る合同企業説明会「SEKISHO JOB FAIR」を同大で開催したことが始まりとなった。翌年には現地法人SEKISHO VIETNAM COMPANY LIMITEDを設立。その後、同フェアは継続的に開催され、昨年11月には10回目となるジョブフェアが開催され多くの

学生が参加。日系企業向け就職イベントとしては、ベトナム国内最大規模にまで成長している(後述)。関彰商事はスポンサー契約の一端として、ベトナムでの知名度向上やブランド力強化に繋げることを目的に同大学のサッカー部への活動支援をスタート。これまでに同部への支援金を提供し、2019年1月には同部を日本に招待し、鹿島アントラーズFCと筑波大学蹴球部などの協力を得て交流試合やサッカー教室を実施した。一方、大学側は関彰商事のロゴマークをユニホームや競技場などに掲載してきた。今後は、これまでの支援活動に限らず幅広い分野での協力が検討されていく。

ハノイ工科大学は1956年創設の国立大学でベトナム最初の技術系総合大学として、学生約3万人を擁し同国の近代化・工業化を担う優れた人材を数多く輩出している。

### 関彰商事 日越外交関係樹立50周年記念特集



# 日本とベトナムの懸け橋として

## 日越外交関係樹立50周年認定事業 ハノイ工科大学サッカー部交流試合

日越外交関係樹立50周年認定事業の一環として、筑波大学蹴球部との交流試合が筑波大学キャンパス内のセキショウフィールドで行われた。スポンサー契約調印式、贈呈式に同行していたハノイ工科大学サッカー部のアンさん(4年)、ズイさん(4年)、リンさん(3年)の3人がセキショウFCの一員として参加した。

交流試合には、関正樹社長やタン学長のほか、関彰商事のスポーツアドバイザーを務めるサッカーのU-23(23歳以下)日本代表監督の大岩剛さんも会場に駆けつけた。試合は前後半40分で行われ、3人はそれぞれ大学でプレーしているポジションで参加。プレーを通じて交流を深めた。

3人は試合後「日本のレベルの高いサッカーを体験し、とても良い経験となった」交流試合で学んだ経験を大学に戻ってチームメイトにも伝えていきたい」などとふり返った。セキショウFCの内藤清志監督は「3人も高い技術を持っていて、



交流試合集合写真



中央赤のユニフォーム3人がハノイ工科大学サッカー部(左からリン、アン、ズイさん)

## 合同企業説明会・面接会 「SEKISHO JOB FAIR 2023」開催

ベトナム人学生の日本就労の夢繋ぐ

10回目を迎えた合同企業説明会・面接会「SEKISHO JOB FAIR」が、昨年11月4日、5日の2日間、ハノイ工科大学で開催された。出展企業は26社、参加学生・求職者数は2日間で2,615名と過去最多の結果となり、ベトナム学生の日本企業への関心の高まりを示した。

「SEKISHO JOB FAIR」は、深刻化している人材不足問題を解消するため、日系企業での就職を希望するベトナム高度人材と、優秀なベトナム人学生を採用したい日系企業をマッチングすることを目的とし2016年からスタート。回を重ねるごとに日本就労の貴重なチャンスとして着実に認識され、日本からの出展企業、参加学生の数は共に増えている。参加する学生もベトナム最高峰の理工系大学であるハノイ工科大学だけではなく、近隣の大学の理工系学生、既卒の理工系・IT系人材などが多数来場し、すそ野の広が



SEKISHO JOB FAIR 2023の会場



熱心に出席企業からの説明を聞く参加学生

### 交流試合で親交深める

チームに溶け込んでプレーしていた」と評価した。

スポンサー契約について3人は「今回、日本を訪れるチャンスを与えてもらい、非常にありがたい。日本の素晴らしさを実感している」「今回の経験を通して将来の選択肢

が広がった。とても感謝している」と謝意を述べていた。関彰商事は「ベトナムの学生が日本への関心を高めてもらうために今後も継続して実施していきたい」と同事業の意義を述べた。